

..... 編集後記

◆ アスベスト工場従業員・元従業員多数が中皮腫を発病・死亡というショッキングなニュースの波紋が広がっている。戦後の日本経済の復興とともに多量のアスベストが輸入され、公共施設など大型建築物の断熱材を中心に広く使われてきた。しかし、人体に有害であることがわかり、除去処理が進んできているはずですが、大きな被害とならないとよいのですが。

◆ さて、今月の地質ニュースは「地中熱」関係の研究者から寄せられた報告5編による特集号となりました。「地中熱」とは耳慣れない用語ですが、温泉や火山地帯にある高温の「地熱」ではなく、私達の足元にあるごく普通の大地や地下水が持つ熱のことのようです。日本でも雪国の道路の融雪装置はまさに地下水の熱を利用したもの、身近なエネルギーとしてなかなか優れたものようですね。

◆ まず安川氏他の皆さんが、「地下の新しい活用法：地中熱による冷暖房」と題して、地中熱の定義から身近な活用法まで、海外での利用例も示されながら、解説してくださいました。

◆ 次に内田氏他の皆さんが、「地下温度分布と地下水流動」で、山形盆地や濃尾平野・関東平野・仙台平野の地下で、地下水がどのような温度を持ち、どのように流動しているのかを概説されました。

◆ 天満氏他の皆さんは、「仙台平野における地中熱利用に関するシミュレーション」を行い、熱の貯蔵には新第三系が、採熱には第四系が有利との結論を得たようです。

◆ 大谷・内田氏は、「濃尾平野の地質構造と温度勾配」と題し、濃尾平野に焦点を絞って、その地下の

地質構造や地下を構成する地層の性質と地下水の関係を紹介されました。

◆ 安川氏他の皆さんは、「熱帯地方での地中熱利用の可能性-タイ・ベトナムでの地下水調査-」について報告されました。エネルギー資源に乏しい東南アジアの諸国にとって、また地球環境の保全の立場から、地中熱の活用がおおいに進んで欲しいものです。

◆ 特集以外では、原氏他の皆さんが、「ラオスの地塊衝突テクトニクス-メコンのほとりで癒しの地質調査-」と題して、タイ・ラオスとの共同研究の成果を報告してくださいました。この地域のテクトニクスに関する情報は少なく、今回の情報は複雑で難解な東南アジアのテクトニクスを解明していく上で大変貴重な情報となるのではないのでしょうか。

◆ 佐藤氏他の皆さんの、「2004年紀伊半島南東沖の地震活動に伴う地下水位変動」は、地震活動とその前後の地下水の水位変動についての最近の研究成果を紹介してくださいました。「東海」・「東南海」・「南海」の3つの地震は連動発生し、スマトラ沖で起こったような超巨大な地震と津波をもたらすという学説が強まる中、興味津々の報告です。

◆ 矢野氏には、(社)物理探査学会の編集によって出版された「新版物理探査用語辞典」について紹介していただきました。最近のめざましい技術革新によって編み出された最新の技術や用語が豊富に盛り込まれ、かつコンパクトにまとめられているようです。この分野に携わる方には必携の書でしょう。

◆ いよいよ、夏本番、フィールド・シーズンに入ります。得るものの多い夏にしたいものです。

(須藤定久)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤定久

副委員長：吉田朋弘

委員：高木哲一・丸山 正・高橋裕平・

光畑裕司・七山 太

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754

Fax. 029-861-3746

地質ニュース	第611号	2005年	7月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2005年7月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail:jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

© 2005 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ